

松尾芭蕉と奥の細道

日本でもっともよく知られる 17 世紀の俳人、松尾芭蕉（1644-1694 年）の記念碑です。彼は平泉を訪れ、傑作「奥の細道」で平泉についても触れました。

12 世紀の平泉は、奥州藤原氏の統治のもと、仏教文化が花開き、多数の寺院が造営され、栄華を極めました。それから 5 世紀ほど経った 1689 年、松尾芭蕉は東北を歩いて旅し、中尊寺を訪れました。

18 世紀に入り、芭蕉の訪問と芭蕉の金色堂の句を記念し、地元の俳句を愛する人々の団体が、この記念碑を中尊寺に捧げました。

五月雨の

降りのこしてや

光堂